

2017年7月30日(日)

主 題:「神が備えられたあなたへの祝福」

—仕えるために清められる—

テキスト:ヘブル人への手紙9章11~14節

はじめに

- ・先日、テレビで「医療スーパー・ドクターズ」という番組で、日本で名医とよばれるドクターを紹介していました。
- ・岡山大学病院・臓器移植医療センターのセンター長、大藤剛宏教授は、肺移植・呼吸器外科治療の第一人者。年間70人から80人の患者の往診のため、全国を飛び回っておられます。
- ・余命が限られている肺の重症な患者の命を救うことができる医療が肺移植ですが、日本では300人以上の患者が治療を待っているそうです。大藤教授率いる肺移植チームは「5年生存率82%」最近の50例における手術成功率100%と、世界に類を見ない治療成績を誇っています。
- ・今年5月、大藤教授は国内最年少の1歳児への肺移植の手術を行い成功しました。患者は1歳の女児で、生まれた時から肺に障害があり、命をつなぐには肺移植しか他に方法はない、と言われていました。テレビではこの女児を助けるために、患者の両親と医師との壮絶な戦いが、ドキュメンタリーで記録されていました。
- ・5月のある日、肺を提供するドナーが福岡で現れました。提供者は脳死と診断された子どもでした。提供者の肺が身体から取り出され、ただちに岡山へ搬送されることになりました。一方、患者の方は肺移植手術を受けるため、ただちに手術室へ入りました。一時を争う限られた時間内で、事は進められました・・・。
- ・手術結果は、大成功となりました。大藤教授は「1歳の子の肺移植手術は初めてであった。」と言い、手術成功の喜びを両親に告げました。両親は深く頭を下げ、「先生、ありがとうございました！言葉がありません。」と感謝の言葉を語られました。
- ・そして番組では、その両親がその後、ドナーの親へ「感謝の手紙」を書き送った内容が紹介されました。「あなたのお子さんの肺は、今娘の身体の中で生きています。娘はお金で決して買えない宝(財産)をいただきました。ほんとうに、ほんとうに、ありがとうございました……。」じつに感動的でした。
- ・皆さん。患者とその両親は、無償でドナー提供を受けました。それは、お金で買えるものではありませんでした。受けたからと言って、何か特別なことができる訳でもありませんでした。ただ受けるだけでした。ですから、言葉に言い表されない感謝を言われたのでした。
- ・愛する皆さん。神が与えて下さった贈物も、同じようです。それは永遠のいのちという宝です。イエス・キリストは、ご自分の御血によって私の罪を赦し、私を贖ってくださいました。
- ・それゆえ、私たちはこうして神の前に出ることができ、神をほめ称えることができるのです。なんという幸いではありませんか。十字架上で成し遂げてくださった神のわざのゆえです。
- ・ヘブル人への手紙の著者は、次のように語っています。
9:14 まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕

える者とすることでしょう。

- ・今日、私たちは神からの贈物(宝)について、次の2点から考えたいと思います。

大切なポイント

1. 主イエス・キリストの御血

9:11 しかしキリストは、すでに成就したすばらしい事からの大祭司として来られ、手で造った物でない、言い替えれば、この造られた物とは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り、

- ・著者は、これまでも何度も述べたように、イエス・キリストによる新しい契約が、どんなに幸いであるかを再び語っています。それは手で造った幕屋ではありません。イエスご自身が完全な幕屋となられたことでした。そして、さらに；

9:12 また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです。

- ・イエスは、大祭司として、動物の血ではなく、ご自身の血を注いでくださいました。

9:13 もし、やぎと雄牛の血、また雌牛の灰を汚れた人々に注ぎかけると、それが聖めの働きをして肉体をきよいものにする

- ・イエスは、ただ一度ご自分の血を注ぐことによって、私たちに永遠に救ってくださいました。この血の注ぎは繰り返される必要はありません。私たちはイエスが与えてくださった、すばらしい恵みを感謝し、受けるだけで大丈夫なのです。本当に感謝の心があれば、そこには主への賛美が生まれてきます。
- ・これがイエスの御血の力です。私たちは恵みによって、そして信仰によって祝福に与ることができます。

2. 主イエス・キリストの御血の祝福

1) イエスの御血は良心に届く

- ・はじめの律法は、私たちの内側にある心、つまり良心の呵責までを完全に取り除くことはできませんでした。

9:9 この幕屋はその当時のための比喻です。それに従って、ささげ物といけにえとがささげられますが、それらは礼拝する者の良心を完全にすることはできません。

- ・皆さん。壊れた車をいくら洗っても外側しかきれいになりません。壊れた車の内側までは、修理できません。私たち人間の大きな問題は、ここにあります。大切な内側の修理が行われていないのです。
- ・なぜ、でしょうか？ それは人に見えない内側部分(見せたくくない)であるからです。内側の悩み、痛み、葛藤、試練を他人に言えないことは、ストレスとなり、疲れとなります。神が人間をお造りくださった目的は、そのような人間にあるのでしょうか。いいえ、決してそうではありません。
- ・十字架の上で流されたイエスの御血は、私たちの内側まできよめてくださいます。しかもそれは永遠の赦し(贖い)を与えてくださいます。もう一度、12節をお読みしましょう。

9:12 また、やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです。

- ・罪のないイエス・キリストがご自分を犠牲にして捧げてくださった御血は、私たちの良心を完全にきよめることができます。イエスの御血によって、私たちは完全な罪の赦しと、神との平和を得て喜ぶことができます。イエスの御血は私たちを罪からきよめるだけではありません。

神はいのちも与えてくださいました。

- ・それによって、私たちの行動も変えられました。私たちは死ではなく、永遠のいのちに向かっていきます。イエスの御血が私たちの行動をきよめてくださいますので、生ける神に仕えることが可能となりました。これは神が宝(財産)として与えてくださった贈物です。ハレルヤ！

2) 旧約聖書時代は、望みの信仰

- ・それは罪ある人間が、聖い神に近づく道を示すものでした。罪ある人間が犯した罪の代わりに、動物がその人の身代わりに殺されることによって、人の罪は赦されました。これが旧約聖書時代の神の律法でした。
- ・その際、殺される動物は傷のないものでなければなりません。傷がないということは、罪がないということを表しています。祭司がその動物の上に手を置くことは、自分の罪をその動物の上に転嫁することを意味しました。ですから、この動物の犠牲は、イエス・キリストの十字架の償いを表していました。
- ・神の宮で、動物が殺され、その血が降りかけられると、その動物を犠牲として捧げた人はきよめられ、神の前に立つことができました。しかし、人の良心までもきよめることはできませんでした。キリストの御血はそうではありません。

9:14 まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするでしょう。

- ・しかし、旧約聖書時代においてもエレミヤやエゼキエルという預言者は、ただ儀式だけについて語ったわけではありません、心についても語っています。

エゼキエル書

36:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。

- ・あるいは、詩篇

51:17 神へのいけにえは、砕かれたたましい。砕かれた、悔いた心。神よ。あなたは、それをさげすまれません。

- ・すなわち、神は旧約聖書時代から、心について語っています。神は人の良心がきよめられることと語っておられます。旧約時代の聖徒たちは、動物の犠牲を手掛かりとして、望みの信仰によって救われました。それは救いを前においた「望みの信仰」でした。それはやがて実現する、キリストの救いの「型」でした。
- ・それに対して、新約時代の人々はすでに成し遂げられたキリストの救いを後方において、もつとはっきりと知ることができます。それを信じる信仰によって救われのです。つまり、それは「恵みの信仰」です。

3) 新約聖書時代は、恵みの信仰

- ・旧約聖書時代の人々は、キリストを前において、神が命じられた罪の赦しの型を繰り返し行なっていました。しかし新約聖書時代の私たちは、キリストを後ろにおいて、しかも傷のない完全なお方の犠牲(十字架)を見えています。
- ・新約聖書時代の人々は、旧約聖書時代より、はるかに有利です。
それは ⇒ 神の恵みです。
旧約聖書時代は、命の無い儀式(律法)を守らなければなりません。それは型であり、また影であるとヘブル人への手紙の著者は言いました。
- ・しかし新約聖書時代に生きている私たちは、完全な大祭司であるキリスト・イエスが与えられました。もう型や影ではありません。真の救い主(メシア)が来られたのです。律法を守るという

生活から解放されました。ですから、もっと命にあふれた信仰生活ができるはずです。

9:14 **まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におさげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするでしょう。**

- ・もし私たちが、まだ「……しなければなりません」という律法主義に縛られているとするならば、キリストの十字架の御死を無駄にすることになります。私たちは律法から解放された者ですから、自由に命溢れる信仰生活を送ることができるはずです。
- ・皆さん。どうぞ誤解しないでください。自由であるから、何をしてもいいという意味ではありません。真の自由を受けた人は、良心をきよめていただいた者として、放縦な生活ができるわけではありません。
- ・あの肺ドナー（提供）を受けた少女を思い出してください。彼女は自分が受けた恵みを知った時、きっと人生を無駄に過ごすことはないでしょう。愛と喜びに満ちた充実した生活を送るよう努めるでしょう。私たちも同じように神の恵みに与ったならば、天の御国に向かって歩む楽しい生活となりのです。

- ・ところで、神は私たちに何を望んでおられるでしょうか。あるいは、私たちは神に何ができるでしょうか。他人を助けてあげることでしょうか。社会に貢献することでしょうか。多くの奉仕をすることでしょうか。多くの捧げものをすることでしょうか。はい、それらは全て尊いことで大切なことです。そして神が喜ばれることです。しかし、

① **神が一番望んでおられることは、何でしょうか。**

⇒ **神への信仰(信頼)です。**

ヘブル人への手紙は次のように語っています。

11:6 **信仰がなくては、神に喜ばれることはできません。神に近づく者は、神がおられることと、神を求める者には報いてくださる方であることを、信じなければならないのです。ヘブル**

- ・神は父祖アブラハムに何を望まれたでしょうか。 **ヘブル人への手紙**

11:8 **信仰によって、アブラハムは、相続財産として受け取るべき地に出て行けとの召しを受けたとき、これに従い、どこに行くのかを知らないで、出て行きました。**

11:9 **信仰によって、彼は約束された地に他国人のようにして住み、同じ約束とともに相続するイサクやヤコブとともに天幕生活をしました。**

11:10 **彼は、堅い基礎の上に建てられた都を待ち望んでいたからです。その都を設計し建設されたのは神です。**

11:11 **信仰によって、サラも、すでにその年を過ぎた身であるのに、子を宿す力を与えられました。彼女は約束してくださった方を真実な方と考えたからです。**

11:12 **そこで、ひとりの、しかも死んだも同様のアブラハムから、天に星のように、また海べの数えきれない砂のように数多い子孫が生まれたのです。**

- ・ヘブル人への手紙 11 章は、「信仰によって」という言葉を、何度も繰り返し用いました。

② **イエスも弟子たちに信仰を求められた。**

マタイの福音書 8 章を読むならば、イエスは弟子たちとガリラヤ湖上の舟の中にいました。ところが大きな暴風雨に見舞われ、舟は大波をかぶり沈みそうになりました。イエスは眠っておられました。そこで

8:25 **弟子たちはイエスのみもとに来て、イエスを起こして言った。「主よ。助けてください。私たちはおぼれそうです。**

8:26 **イエスは言われた。「なぜこわがるのか、信仰の薄い者たちだ。」それから、起き上がって、風と湖をしかりつけられると、大なぎになった。**

8:27 人々は驚いてこう言った。「風や湖までが言うことをきくとは、いったいこの方はどういう方なのだろう。」

- ・イエスは嵐の中でも、弟子たちに信仰を求められました。なぜでしょうか？嵐という試練下で、弟子たちが不安を覚えてたことは自然でしょう。私たちも人生において、嵐（試練、苦しみ、戦い等）がやってきます。しかもそれは多くの場合、避けることが困難です。
- ・そこで、ある方は「聖書の教えはすばらしいですが、嵐の中で信仰を持ちなさい、と言われても私にはできません。」と言われるかもしれません。大丈夫です。神はその弱い私たちをご存じなのです。

[例 話] Jakob Esau 世界巡回伝道師

- ・シベリヤの収容所に 25 年以上も入れられ、前後 4 回にわたり刑務所にも入れられたヤコブ・エソウ師は、まさしく神の人でした。数多くの試練にあったエソウ師は、私にこのように語ってくださいました。
- ・「私は今西側世界へ出て来て、すべての面で恵まれている。あのシベリヤの収容所での生活を思うと、まるで夢を見ているようだ。」そして、彼はさらにこう語りました。「もし仮に、私にもう一度あのような迫害という嵐がきたら、私は耐えられるか否か分からない。しかし私の神は、その時、その場で、必要な力を与えてくださるお方であることを、私は知っている。」
- ・1 コリント人への手紙
10:13 あなたがたのあった試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に会わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます。
- ・私たちは「信仰によって」歩むことが大切です。

③ 愛する皆さん！ 私は「信仰は点である」と聞いたことがあります。

- 人生で出会う試練、苦しみ、戦い、葛藤を「点」とするならば、その点と点がつながると「線」になるのです。そしてゴール（天の御国）へ向かうのです。
- ・人生の嵐という点を、神にある信仰で迎えるならば、そしてその点がひとつ、ひとつ繋がっていくならば、信仰生活は前進します。そして信仰が強められていきます。
- ・では、どうすれば良いのでしょうか。嵐の中で何が必要でしょうか。
⇒全能の神への信仰(信頼)
ここに受け止める信仰が教えられます。
- ・すでに神の救いの計画は、イエス・キリストにあって成就しました。
神は私の点の中にもおられます。そして助け主である聖霊を送ってくださいました。
- ・私たちは、もう死んだ行いから離れ、生ける神に仕える者となりました。それは私ではありません。神が成してくださったわざです。神がまず行われた条件は、「きよめ」でした。神は聖なるお方ですから、罪や不義を容認することはできません。
- ・イエスは真の大祭司として、罪のきよめを、ご自身の体で行ってくださいました。すべてのわざを完了されました。私たちはこのお方の御名を崇め、賛美するものです。
- ・「信仰は点である」、点と点がつながれば「線」になります。
そしてその「線」の先は、「天の御国」（ゴール）です。信仰をもって迎える点では、イエス・キリストは共にいてくださいます。何という「恵み」ではありませんか。

まとめ

主 題:「神が備えられたあなたへの祝福」
—仕えるために清められる—

・私たちは今日、幸いな主のおことばを聞きました。まとめてみましょう。

9:14 まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするものでしょう。

- 1 イエスの十字架の御血は良心に働く
- 2 神への応答は信仰である

・私たちは信仰を「点」としてとらえ、神に従順に従いましょう。そして約束の地へ、喜んで歩ませていただくではありませんか。

* God bless you!